

# 県退教協だより NO. 77

長崎県退職教職員等連絡協議会  
長崎市筑後町二一 教育文化会館  
☎〇九五―八二二―五一九五

## 長崎県退教協\*第36回 定期総代会

二、6月24日、県教育文化会館にて第36回定期総代会を開催しました。

議長団に、北松支部・辻村敏事務局長、長崎支部・成瀬 熙久総代を選出しました。会長挨拶に続き、県教組委員長長挨拶・来賓・矢嶋高問連会長・県退女教、熊江典子会長挨拶。坂本浩県議、池田章子長崎市議、早稲田矩子佐世保市議(メッセージ)より激励と連帯の挨拶がありました。

議事に入り、経過報告として、1、第47回衆議院議員選挙の取り組みでは、四選挙区とも過去最低を更新し、民主・高木候補の比例区当選一人に終わった。

2、統一自治体選挙の取り組み  
安倍内閣の有事法制化等の具体化の中で、危機感を持って臨んだ。各選挙区では、現役が担えない活動を、退教協・退女教が一体となつて進めた。

3、憲法、反核、平和、脱原発、集団的自衛権の行使を許さないながさき集会：の取り組み。平和運動センター：高問連等と連携して私たちの運動の根幹をなす取り組みを進め参加した。

4、核兵器廃絶一千万署名活動：戦争をさせない一千万署名活動：(現活動中)  
1名でも多くの署名を集めました。

2015年度・運動方針については、当面の要求として、①年金の改善 ②不公平税制の是正 ③介護保険制度の運用・改善 ④医療・保険・福祉制度の改善 ⑤脱原発 ⑥マイナンバー制度の再検討を挙げています。

具体的な運動を進めるために、日教組・日退教をはじめ、高問連・長退連など他退職者団体・現職・市民団体と連携して取り組みます。

選挙で私たちの要求を勝ち取るために、選挙の重要性を再確認し、2016年度参議院議員選挙における日政連議員、推薦議員の当選を期してたたかいを進めます。

今年度は、県退教協役員改選期に当たり、坂巻毅治会長が退任されました。副会長3年・事務局長・8年・会長・8年計一九年間、長い間のご尽力有り難うございました。

## 2015~16年 県退教協役員

会長	八木 一郎
副会長	高比良 則之
事務局長	西村 祐一
次長	中山 士郎
会計委員長	高比良 廣
会計監査	池田 哲夫
"	前田 順則
"	吉野 博信



戦争関連法(安全保障法制)を許さず、「集団的自衛権」の容認を阻止し、平和と民主主義をまもろう!

一、日退教九ブロ、第24回研修会・第37回定期総会が三月一〇日、二一日にかけて、長崎県教育文化会館に於いて開催されました。九州八県から、県退教協：高退協併せて一四単会、百数十名の会員が集まり、活発な討論が行われました。

開会行事では、日退教西澤会長の連帯あいさつに始まり、長崎からの問題提起として「女性と平和」と題して、山川 剛さんが講演されました。

午後からは、三分科会に分かれ、各単会からの提案レポートについて、活発な討議が展開されました。

二日目：定期総会「中央情勢報告」  
西澤日退教会長が、国会を中心とした政治・経済の情勢と題して、  
①集団的自衛権の行使、②原発問題、③国民の生活、④首相の品位・知性?・・・等、安倍政権に対する問題点を指摘されました。特に、「違憲立法である「戦争法案」の強行成立については、なんとしても全組織を上げて成立を阻止しなければならぬ」と痛感しました。

【活動報告】  
**北松支部の現状**  
 県退教北松事務局長 辻村 敏

★北松支部は、一九八六年十二月発足、二九年目を迎えることができました。

会員は五〇余名ですが、高齢となり病床での生活を余儀なくされている会員もいます。

地区は三市一郡と広範囲のため、九グループに分け、各グループから幹事を選出し「北退教だより」の手配りを中心に活動しています。

年間の主な活動を紹介します。

- ・ 四月 総会・懇親会
  - ・ 五月 現退交流会（つながるう会）
  - ・ 六月 旅行委員会
  - ・ 八月 役員会
  - ・ 九月 親睦会
  - ・ 一月 仲間の会
  - ・ 三月 役員会
- ※「北退教だより」発行。五・七・九 十一・一・二月の計六回。広報委員会は事前に毎回開催しています。

★四月の総会終了後の懇親会は、年一回顔を合わせる場として楽しみにしています。ハンドルキーパーを決めて交流しています。しかし、年々参加者人数も減少傾向にあります。五月に実施しています現退交流会（つながるう会）には、できるだけ参加し交流を深めています。

八月の役員会は原爆祈念日に開催し、犠牲者に黙祷をしています。九月の旅行は例年一泊二日の日程、マイクロバスで福岡市方面まで足を延ばし、平和学習のため九州北部に点在する史跡巡りをし、途中に工場見学（アルコール補給）をしながら日程にゆとりを持って実施しています。

★幹事さんには、役員会の構成メンバーとして入って活動していただいています。今後も支部内の話し合い・融和を大切にしながら運営・活動していきたいと思っています。

★今年度は、支部内に「九条の会」が設立されたことが総会でも紹介され、集会（上映会）に多数の仲間が参加してくれました。その後の署名活動にも積極的に取り組まれました。

今後他の団体と協力しながら活動していくことが大切であると思っています。



「長崎市公会堂前広場」

ヨカ余暇生き生きコーナー(37)  
**人それぞれのお題 三三 藤**  
 県退教大東支部長・藤崎 芳憲

▼今から十一年前、現役最後の年の十月胃ガンにかかり全摘出の手術を受け、半年に一回のCT検査に四年間通いましたが、幸いなことに問題ないということで、現在に至っています。

▼その前後に、いろんなグループで中国やエジプトの海外旅行も経験しましたが、最近、支部の退職互助や退教協の日帰り・一泊旅行に参加し、見聞を広めています。また、三十年位前から県内外の古書店巡りを始め、考古学・古代史関係の書籍を購入してまいりましたが、蔵書も相当な数になり、そろそろどう整理したものかと考えている今日この頃です。

▼個人的には、月二回、第一・第三金曜日午前十時～一二時）に、近くの住民センターで、女性講師の指導のもと木彫り（木彫り）という会に所属し、いろんな作品を作っています。

年に一、二回昼食懇親会、材料購入のため県内外に出かけています。

他に、テレビの国宝・歴史関係の番組をDVD（BD）に編集したりしています。また、近所の方から分けてもらった熱帯魚のケツビの飼育も四年ほどやっていたの

ですが、冬の温度管理のからみで、現在はメダカの世話だけにしています。支部内では、バードウォッチングや農地を借りての野菜栽培、オリブの木を植えて、オイルの抽出をしているなど、人それぞれ楽しみがあるようです。

また、年に数回、県内や福岡方面の博物館・美術館巡りも行なっています。

▼一日の楽しみである晩酌は（タバコはガンとわかったとき三日でやめました）退院後半年ほど過ぎてから、恐る恐る軽いものから少しずつ飲んでおりましたが、現在は現役のとくと変わらない位の量となっています。

▼最後に、大村地方の方言を少しばかり紹介して筆を置きたいと思えます。  
大正七年（一九一八）に編纂された「郷土史」の中から

- ナツセ（来ナツセ 来なさい）
  - クンナツセ（くれなさい）
  - シナル（なししなる 無くなる）
  - チンチヨカ（珍奇または嫌な意に用う）
  - アツテマヤ（感動詞）
  - インナヤ（否）
  - サヨガッショ（さようなら）
  - イガ（赤子）
  - ヘンプ（とんぼ）等々
- ▼方言を残そうと「方言で語ろうなどのサークル活動もある」とのこと。

《活動報告》

小人数で  
ほそぼそと……

長崎県退女教・諫早地区

《吉富 恵子》

諫早退女教は、平均年齢七九・九歳、総勢三七名の小規模組織です。以前は、年一回の泊旅行、班（三班編成）持ち回りで主務活動やフィールドワーク等の楽しい行事も実施していましたが、高齢化のため皆身体的に参加が難しくなり、今では総会と新年会、食事会等班の企画行事に三分の二程の出席が得られる程度になっています。

現職女性部を応援する意味で「父母と教職員の会や「女性部新春レク」に参加させていただいたり、昨年は問題が発生した「諫早氏東部学校給食センター」を（アイ女性会議のみなさんと共に視察したりしました。

毎月九日には、諫早眼鏡橋前で行われていくちくろう主催の「反核の座り込み」二少数（二〜三名）だけでも参加しています。若い市職組の方々が動員されており毎回頼もしく感じるし、中学校での教え子がいた時は嬉しい限りでした。

現職の頃取り組んだ平和教育は、かき集めた資料を使って、八月九日に行ったものでした。とても年間カリキュラムに組みこめる時間の余裕がなかった状態でしたので、彼女は組織で育てられているのだと実感しました。我々の平和活動が、教え子とともに深められれば充実感もひとしお。諫早退女教では、「高校生平和大

使」の活動を、カンパや書籍購入、署名集め等を通して、ささやかながら支援していくことを活動方針に取り上げています。

八月九日の原水禁諫早地区集会には「できるだけ参加しよう」と申し合わせており、三分の一ぐらいの仲間は結集できております。今、全員で取り組んでいるのは、各種署名です。昨年八月には、「集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求める決議」を諫早市議会に求める請願書を提出する活動にも参加し、市議会総務委員会や本会議を傍聴しました。請願書採択賛成の議員はわずか六名。いつもながらその結果には失望させられています。

長崎市で開催される各種集会や学習会には、役員三〜四名しか出席できないので、公演の要旨や状況を、年三回発行する『諫早退女教だより（A4・6ページ程度）』に載せて全員に共有してもらおう取り組みを行っています。

諫早退婦教発足間もなくの頃より続けられていくボランテニア活動は、諫早療育園でのおむつたたみです。

年々変わりゆく我が身の体調に思いをめぐらせ複雑な心境で参加しています。諫早退女教では十年前「戦中戦後を生き抜いて」というタイトルの全員による書き下ろしの文集を発行しました。

今年、戦後七十周年で節目の年に、違憲と指摘を受けながらも、戦争法案が罷り通ろうとして今、もう一度この文集をみんなで見返して、これからの日本に思いを馳せ語り合うことにしています。



